

第726回新潟医学会次第

第726回新潟医学会を下記の要領によって開催致しますので何卒多数ご来聴下さいますようお願い申し上げます。

日時 平成29年10月21日(土)午後1時30分から
会場 新潟大学医学部 有壬記念館

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (午後1時30分～2時) 座長 成田 一衛 先生 (腎・膠原病内科学 教授)

「慢性腎臓病に対する透析療法の進歩と課題」

山本 卓 先生 (血液浄化療法部 准教授)

慢性腎臓病に対し血液透析が本邦で行われて50年が経過した。黎明期では生命維持が目標であったが、現在では腎臓病関連疾患の予防を含めた透析患者のQOLやADLの保持が重要な課題となっている。腎移植の普及、再生医療の研究開発が世界的に進んでいる一方で、我々は現行の透析療法では不十分な尿毒症物質の除去効率を向上させる次世代人工腎臓の開発を進めている。

II. 特別講演 (午後2時～2時30分) 座長 藤井 雅寛 先生 (ウイルス学 教授)

「USP10はプロテアソーム阻害剤に対する腫瘍細胞の感受性を制御する」

高橋 雅彦 先生 (ウイルス学 准教授)

ボルテゾミブなどのプロテアソーム阻害薬は多発性骨髄腫などの血液腫瘍に対して高い治療効果を示す。一方で、腫瘍細胞がボルテゾミブ耐性を示す事例が報告され、治療上の障害になっているが、その分子機構については不明な点が多い。我々はUbiquitin-specific protease 10 (USP10)が腫瘍細胞のボルテゾミブ感受性を抑制することを見出した。本講演では、USP10がいかにして腫瘍細胞のボルテゾミブ感受性を制御するのかについて紹介する。

III. 特別講演 (午後2時30分～3時) 座長 堀井 新 先生 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)

「側頭骨手術解剖：トレーニングとシミュレーションの変遷」

高橋 邦行 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授)

側頭骨には聴覚、平衡感を司る感覚器とともに、神経、血管などの重要構造物が存在する。そのため安全、確実な側頭骨手術を行うには、解剖を熟知することが必須である。これまで側頭骨手術解剖の習得には、実際の手術とともにカダバーを用いることが多かったが、近年のバーチャルリアリティ、3Dモデルの発展に伴い、その方法は変化しつつある。新しい側頭骨手術トレーニング、シミュレーションと、その有用性について紹介する。

IV. シンポジウム (午後3時～5時)

司会 堀井 新 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)

「耳鼻咽喉科領域における心身相関」
(シンポジスト)

1. めまいについて

堀井 新 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)

2. 耳鳴について

野々村頼子 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

3. 咽喉頭異常感症について

高橋 奈央 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

(特別講演)

「脳腸相関から解き明かす心身相関の医学」

福土 審 先生

(東北大学大学院医学系研究科行動医学 教授)

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大学院特別講義

〔 大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎致します。参加料は無料、事前申込の必要はございません。自由に御参加下さい。当日は医学部職員駐車場のゲートが開いておりますので、ご利用下さい。 〕